

夏越しは 葉面積が 左右する

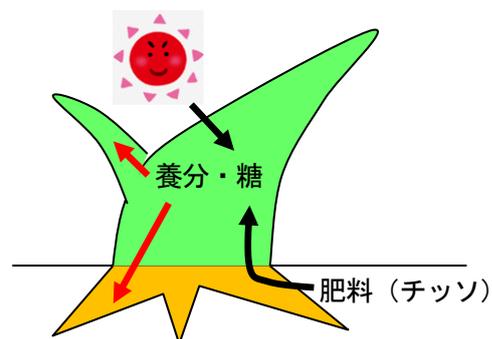
現在（6月30日）梅雨が明けている地域と、明けていない地域がありますが、今年は例年以上の高温が続きます。今回は高温期の施肥と注意点について考えたいと思います。

1. 葉面積が一番重要

キーパーから「芝が弱ってきたけど、何を散布したらいいの？」という声をよく聞きます。しかし、肥料や活性剤より一番の特効薬は葉面積です。しかも芝が弱る前に葉面積を多くしておく必要があります。葉面積を増やす一番簡単な方法は刈り高を上げることですが、刈り高を上げることに抵抗感を持っているキーパーもいます。

2. 葉の養分を増やそう

成分とはNPKなどの元素のことです。
一方、養分とは葉で作られる糖などのことでこの養分が葉や根を育てます。つまり、葉の面積が多く葉色が濃い方が葉緑素は多くなり、養分量も増えてきます。生育不良が考えられる場合は、刈り高を上げてから施肥して下さい。



3. 知らないうちに低刈りだった

新品のハンドモアで刈り高を4mmに設定しても実際の刈り高は3.5mm程度になります。また、26インチモアに比べて22インチモアは低刈りになります。またモアの前輪がフラットローラーに比べて溝切ローラーは低くなります。夏になると、ぜひフラットローラーにして下さい。これだけで夏越しが楽になります。

4. 刈らないことも効果はあるが？

毎日刈るよりも、1日おきに刈った方が夏越しに効果があるのは事実ですが、これも葉面積に関係しています。ただ、芝の葉伸びにもよりますが、中2日おいて刈ると逆に生育が悪くなるので注意が必要です。

5. 夏越し肥料はピタスピードK

私が自信をもってお勧めできる夏用肥料は、昨年リニューアルした「ピタスピードK」です。ベントグラスの夏越しを難しくしている原因のひとつは、強日照で作られる毒性物質である活性酸素です。マグネシウムは活性酸素の生成を抑えます。さらに活性酸素を無毒化する抗酸化物質のアミノ酸やアスコルビン酸が入っているピタスピードKは、最強の夏用肥料です。1回当たりの施肥量は1～3g/m²です。7～10日おきの施肥がお勧めです。

芝草漫遊記

長年ゴルフ場を訪問しましたが、夏に芝が枯れたコースを訪問するのが一番つらいです。キーパーは必死に管理をしても、人、物、金が少ない状況では限界があります。また、芝にとって良いことをしなくても悪いことをしないことが重要ですが、暑い中で自ら作業していると「良いこと」と「悪いこと」の判断ができない状況だと思えます。芝が悪くなった時でも、どっしりと落ち着いている人と、心配で慌てている人がいます。落ち着いている人も2種類あり、開きなおりタイプと今後の対策が明確に決まっているタイプがあります。この時期に一番大切なのは、刻々変わる芝の変化を早く見つける観察力が一番大切だと思います。